「豊かな環境をつくる」保育を考える

1　豊かな環境

豊かな環境をつくるということが子どもの成長にとって、とても大切であることは誰もが思うことです。それでは、どのような環境が豊かな環境なのでしょうか。美しいものがある環境、様々な情報がある環境、多くの人が関わることができる環境、自然豊かな環境、様々な環境が大切だと考えることでしょう。幼児教育における環境の意味や大切さについて、「幼稚園教育要領」では第1章総則、第1節幼稚園教育の基本において以下のように記されています。

> 幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このため教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる幼児期の教育における見方・考え方を生かし、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めるものとする。(以下略)

豊かな環境であるということは、素晴らしい遊具や教具と空間等を使うことができる状況を用意するだけではありません。子ども一人ひとりの発達の様子に応じて、子どもが「面白い！」「なぜだろう！」「もう1回！」「この次は！」とワクワクしながら子ども自身が関わりたくなることを中心に考えていく必要があります。豊かな環境とは、物的な条件がそろっていることだけでなく、保育者と子どもとの関係を基盤に子どもと物と人、そして様々な事象の相互作用によって作り出されていくのです。

子どもと保育者の信頼関係

2　環境を通して行う教育について

子どもたちがワクワクしながら(主体的に)興味や関心を広げて充実感や満足感を味わう体験を重ね、その中で一人ひとりの意欲が高まるように豊かな環境をつくっていくことで、「環境を通して行う教育」は実現されていきます。

その時に大切にしたいポイントについて考えてみましょう。

① 子どもとの関係

保育者が子どもとの信頼関係を築くためには、子どもを丸ごと受けとめることです。子どもの行動はその一つひとつに意味があります。時には、多くの子どもたちの中で受け入れることが難しいことであっても、そこにはその子なりの理由(意味)があるのです。また、保育者の予想とは異なる言動をした時にも、そこにはその子なりの理由があるのです。これらの一つひとつの出来事のなかで、子どもの心を理解して受け止めようとする保育者の関わりが子どもとの信頼関係を築くことにつながるのです。

② 環境としての保育者

保育者も環境のひとつであるということは幼稚園教育要領解説の序章に教師の役割として「特に、幼稚園教育が環境を通して行う教育であるという点において、教師の担う役割は大きい。一人一人の幼児 に対する理解に基づき、環境を計画的に構成し、幼児の主体的な活動を直接援助すると同時に、教師自らも幼児にとって重要な環境の一つであることをまず念頭に置く必要がある。」と記されています。「自らも幼児にとって重要な環境の一つ」であることを、保育者が意識をして、一人ひとりの成長へ願いをもって子どもと関わり、思いを込めて保育の準備をすることが重要になってきます。この時に重要なのは、保育者が一人ひとりの子どもの興味・関心をどのように捉えているかということです。

③ 子どもの興味・関心を捉える保育者

子どもの興味・関心を捉えるためには様々な方法があります。

・子どもと関わってあそぶ中で感じたことを後から振り返って記録する。

・子どもの様子を観察しながら記録をとる。

・カメラ、ビデオ等の媒体を使って子どもの様子を撮影して捉える、等

様々な方法で記録した子どもの様子から、保育者が子どもの気持ちや興味・関心等を捉えて環

境について考えていきます。

〇〇さんにとって何が必要なのか？　どのように関わることが〇〇さんの興味・関心につながるのか？　繰り返し試したり考えたりするためには？　等を考えながら子どもと関わることが、子どもにとっての豊かな関わりの基になっていきます。

④ 場所や空間

子どもが生活をする場が子どもにとって適切な場所であるかはとても大切なことです。狭い空間のなかで長時間一緒にいることで、パーソナルスペースが狭い状況が続くと、様々なことで子どもの一人ひとりの思いが満たされないことも生じてきます。その思いがぶつかり合ってトラブルになることもあるでしょう。また、空間が広すぎるためにあそぶ場所が拡散してお互いのあそびを意識し合うことができないという様子もあるかもしれません。あそびや生活の中で子どもが必要としている空間はどれくらいなのか。このあそびにこの場所は適しているだろうか。子どもの動線は確保されているだろうか、等の場所や空間についても常に捉えていくことが大切です。同じ空間でも、あそびの状況によって狭すぎることも広すぎることもあります。豊かな環境を作り出すには、場所や空間と子どもとの関係をしっかりと捉えて環境を構成する必要があります。

⑤ 子どもが試行錯誤したり考えたりする環境

子ども自身が考えたり、繰り返し試したり、挑戦したりして夢中になってあそぶためには、子どものための豊かな環境が必要になります。子どもがワクワクしてあそびや生活をするために備えられた空間の中で、子どもは試行錯誤したり考えたりすることで、子ども自身が知ることへの意欲を高めていくことになるでしょう。これが、学びへの意欲につながっていきます。

ここで忘れてはいけないのが、環境としての保育者の存在です。子どものために設えられた豊富なものの中にさえいれば豊かな体験ができるわけではありません。そこに関わる保育者の存在が大切になってきます。アイデアを出してあそびを方向付ける存在、思いを受け止めてくれる存在、仲間として一緒に楽しむ存在、必要な材料を用意してくれる存在等といった多くの役割を果たす保育者の支えが大切になります。

3　子どもにとっての環境

幼児の発達や経験等によって、同じ遊具や用具、素材でも園児の興味や関心は異なります。一人ひとりの園児が興味や関心をもって環境に関わり、ワクワクしながら自ら環境に関わってあそぶためには、遊具や用具、素材などの様々な要素を捉えて環境の構成をすることが大切です。

3歳児から入園したA児が安心した表情で積み木を使ってあそんでいる様子から考えます。この時、積み木は保育室の隅に置かれ、ほかの園児の動線が重ならないように配置されていました。また、保育者は様々なあそびの様子を関わりながら見守っています。また、積み木には積み上げる、並べる、比べる、見立てる等の多様なあそびの要素があります。このような様々な状況があったために、入園したばかりのA児は、積み木を並べて「電車だよ」と見立てたり、積み上げて「マンションができた」と見立てたりと、繰り返しあそぶことを楽しむことができたのだと考えられます。積み木の特性を理解することや保育者が関わることで子どもに必要な環境をつくり出すことができるのです。

4　領域「環境」の視点から

「幼稚園教育要領」の身近な環境との関わりに関する領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」を目的として、子どもが育つ姿として、「ねらい」が記されています。

1　ねらい

(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

(2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。

これらは、子ども自身が「環境に関わる力」を育むためのねらいです(保育者が保育を展開、充実させるための「環境の構成」や「環境による教育」等の「環境」とは質が異なるものになります)。

子どもが「環境に関わる力」をもてるようになるには、保育者がどのような遊具や場所、人の関りなど「環境の構成」を考えるのかということになるのです。

CONTENTS

まえがき …… 001

はじめに　知っておきたい「豊かな環境をつくる」保育に関する基礎・基本 …… 002

1　幼児教育の基本 …… 002

2　幼児教育において育みたい資質・能力 …… 003

3　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 …… 004

「豊かな環境をつくる」保育を考える …… 007

1　豊かな環境 …… 007

2　環境を通して行う教育について …… 008

3　子どもにとっての環境 …… 009

4　領域「環境」の視点から …… 010

5　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に深く関わる環境 …… 011

第1章　よくあるギモン30

Q 1　安心できる環境をつくる時に大切なことはどんなこと？　0歳ごろ …… 018

Q 2　乳児期の環境で注意することは？　0歳ごろ …… 020

Q 3　戸外の環境を豊かにするには？　1歳ごろ …… 022

Q 4　教材研究はどうして大切なの？　1・2歳ごろ …… 024

Q 5　繰り返し試すことのできるあそびは？　1・2歳ごろ …… 026

Q 6　じっくりあそべる環境とは？　2歳ごろ …… 028

Q 7　保育室の環境は、いつ、何を変化させることが大切なの？　2歳ごろ …… 030

Q 8　発達を捉えて環境を構成するには？　3歳ごろ …… 032

Q 9　保育者の意図はなぜ大切？　3歳ごろ …… 034

Q10 計画的な環境構成とは？　3歳ごろ …… 036
Q11 長期的な流れを見通して考えるには？　3歳ごろ …… 038
Q12 片付けやすい環境をつくりたい。どうすればいいの？　3歳～4歳初め …… 040
Q13 幼児期に大切な環境のポイントは？　3歳～ …… 042
Q14 環境としての保育者の役割とは？　4歳ごろ …… 044
Q15 子どもの意欲を引き出すためには？　4歳ごろ …… 046
Q16 自然環境はどうして大切なの？　4歳ごろ …… 048
Q17 数に興味をもつことができる環境にするにはどうしたらよい？　4歳ごろ …… 050
Q18 体験の多様性と関連性とは？　4歳ごろ …… 052
Q19 「環境を見直して」と言われたけれど、どうしたらいいの？　4歳ごろ …… 054
Q20 環境の再構成の仕方が分からない。どのようにすればいいの？　4歳ごろ …… 056
Q21 子ども同士の関わりがうまれる環境とは？　4・5歳ごろ …… 058
Q22 教材の準備はどのようにすればいいの？　5歳 …… 060
Q23 子どもの興味・関心に応じるには？　5歳ごろ …… 062
Q24 子どもが主体的に行動できる環境とは？　5歳ごろ …… 064
Q25 子どもとともにつくる環境とはどのような環境？　5歳ごろ …… 066
Q26 安全な環境をつくるには？　5歳 …… 068
Q27 言葉が豊かになるとは？　そのためにはどのような環境が大切？　5歳ごろ …… 070
Q28 あそびの場を残せばあそびは継続する？　5歳ごろ …… 072
Q29 自分たちで考えて生活ができるようになってほしいけれど、どうしたらいいの？　5歳 …… 074
Q30 長時間保育の子どもが安心してあそぶことができる環境とは？　5歳ごろ …… 076
{column} 子どもの姿から …… 78

第2章 「豊かな環境をつくる」アイデア20

1 いろいろな手触りを体験しよう 0・1歳ごろ～ …… 080
2 ボールあそび 2・3歳ごろ～ …… 082
3 コミュニケーション力を育む 3歳 …… 084
4 園庭の探検ごっこ 3歳ごろ～ …… 086
5 偶然を引き込む 3歳～ …… 088
6 春の花にふれる～季節を生かした環境①～ 3歳ごろ～ …… 090
7 水あそび～季節を生かした環境②～ 4・5歳 …… 092
8 秋の木の実などを使った環境づくり ～季節を生かした環境③～ 2歳ごろ～ …… 094
9 氷や霜柱～季節を生かした環境④～ 5歳ごろ～ …… 096
10 転がしドッジボール 4歳ごろ～ …… 098
11 お店ごっこ～お金を使ってみよう～ 4歳ごろ～ …… 100
12 環境との出会いを大切にする～子どものイメージを物で表現していく～ 4歳 …… 102
13 知る、深める、情報環境 4歳～ …… 104
14 小動物(ウサギ)を育てる 4歳ごろ～ …… 106
15 構成あそび 5歳ごろ …… 108
16 探求を深めるあそび～動く車を作りたい!～ 5歳ごろ～ …… 110
17 ICTの活用 5歳 …… 112
18 行事の内容を子どもと一緒に考えよう! 5歳ごろ～ …… 114
19 SDGsと環境 5歳ごろ～ …… 116
20 伝え合う環境～作ってあそぶ楽しさを味わう中で～ 5歳・小学生 …… 118
{column} 子どもの言葉から …… 120

第3章 接続期で「豊かな環境をつくる」

1 幼児教育と小学校教育の接続の必要性と基本的な考え方 …… 122
2 接続期での「豊かな環境をつくる」 …… 124
3 豊かな成長を支える環境を構成する要素 …… 127
4 幼児期にふさわしい環境のあり方 …… 129
5 接続期の環境素材のあり方 …… 130
6 接続期におけるICT等機材の活用 …… 134
7 自然環境の変化とともに育つ5歳児 …… 136

Q8 発達を捉えて環境を構成するには?

【 3歳ごろ 】

季節の活動など同じテーマの活動をどの学年でも行うことがあります。同じ活動なら、同じねらいや援助、環境構成でいいのでしょうか。それとも、発達の違いによって環境を変化させる必要があるのでしょうか。

子ども

先生! 色水やりたーい。

保育者

じゃあ、去年と同じ道具を
そのまま用意すればいいのかな?

なぜだろう?

保育者のギモン

初夏になると、きれいな花々が目につき、水の感触が気持ちいいことから、どの学年の子からも色水あそびのリクエストが出てきます。同じ活動をしているのなら、環境構成は同じでいいと思うのですが、発達によって変える必要があるのはなぜですか。

お答えします!

解決の糸口

同じような活動をしているように思えても、学年によって、子どもたちの取り組み方や興味や関心のもち方も変わってきます。保育者のもつねらいも違ってきますね。それに合わせて、環境構成も変える必要がでてきます。

Answer

3歳児

先生、きれいな色が出たよ!

5歳児

どうしたら、
きれいなオレンジ色の
色水ができるかなー。

子どもたちの発達や状況に合わせて、どのような環境を用意したらいいかを考えましょう。

活動ごとに用具を整理して片付けてあるのはいいことですが、子どもたちの様子を見ずにそのまま出してしまうと、その時期に大事にしたい子どもの育ちを損なうこともあります。

NG

Point

3歳児に対しては?

一人ひとりの興味や関心、やりたいという意欲を大切にしましょう。そのために、十分な量の花や道具を用意しておく必要があります。一人ひとりの子どもたちの楽しさ、発見の喜びや驚き、美しさに感動する気持ちを丁寧に受け止めていきましょう。使いやすい道具をできれば人数分用意し、それぞれの子どもたちが満足いくまで活動を楽しめるようにします。

5歳児に対しては?

よりきれいな色水ができるように、様々な色が出るようにと、友達と一緒に工夫したり、試したりする姿が見られます。道具や植物を保育者が全て用意してしまうのではなく、子どもたちのアイデアを取り入れながら一緒に環境構成をしましょう。また、色水を使ってごっこあそびをしたり、染め物をしたりというあそびの発展も見られます。

28 あそびの場を残せばあそびは継続する?

子どもたちの「継続してあそぶ力」を育てたいと思っています。前日のあそびの場所を片付けずに残しておくことは、有効な手立てなのでしょうか？

【 5歳ごろ 】

保育者

あれ、残しておいたのに、
全然基地が使われていない……。

子ども

今日は、鬼ごっこをしよう。

なぜだろう?

保育者のギモン

あそびが継続するように、子どもたちがつくった基地を片付けずに翌日まで残しておきました。しかし、翌日、子どもたちは違うあそびに行ってしまい、基地であそぶ姿は見られませんでした。どうしてなのでしょうか。

お答えします!

解決の糸口

場を残すことは、あそびが継続するための有効な手立ての一つです。しかし、保育者は継続してほしくても、子どもたちの基地に対しての思いはどうなのか、今の興味や関心はどこにあるかなど状況によって判断していく必要があります。

Answer

保育者

明日も続きをする？　違うことを
するのだったら片付けましょう。

子ども

続きをするから、とっておきたい!

子どもたちと相談して場を残しておくかどうか決めましょう。また、もし残しておくならあそびやすいように子どもたちと一緒にあそびの場を整えておきましょう。安全面からの再チェックも必要です。

保育者の思いだけで場所を残しておいても、使われないことがあります。また、残しておいた場所が荒れていたり壊れそうだったりするのを放置してはいけません。

Check

Point

残しておくことが有効な場合

子どもたちが意欲的にそのあそびに取り組んでいる場合は子どもたちと相談して、その場所を残しておいてもいいでしょう。翌日の登園の意欲や見通しにつながり、あそびを継続し、深めていく楽しさを感じることができるようになります。また、自分たちの場を大切にしようという気持ちや強い仲間意識が生まれることもあるでしょう。

残しておくことが有効でない場合

子どもたちの興味や関心が移ってしまったら、子どもたちと一緒に片付けましょう。いつまでも場を取っておくと、気持ちの切り替えができません。また、あそびが継続していても、場を作り直すことによってよりあそびが楽しくなったり、考えたり工夫したりする場面が増えることもありますので、残しておくことがいいとは限りません。

1 いろいろな手触りを体験しよう

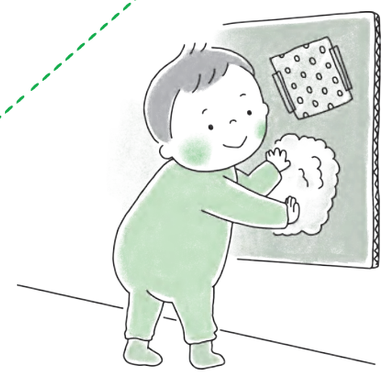
想定年齢 0・1歳ごろ～　実施人数 1人～　所要時間 約5分

「ふわふわ」、「ざらざら」、「すべすべ」、「ごつごつ」、「プチプチ」、「つるつる」。子どもたちの周りには手触りの違うものがいっぱいあります。触ると、「がさがさ」、「しゃかしゃか」などの音の出るものもあります。布、紙、ビニール、プラスチックに子どもたちが触れてみて、違いを楽しんでみましょう。

準備するもの ❶紙　❷布　❸ビニール　❹梱包材　❺段ボール　など

あそびかた

1 準備したものをポリエチレンのジョイントマットなどに貼り、周囲をテープ等でとめておきます。おすわりやはいはいの時期には手のひら全体で触れることのできる大きさで作ってみましょう。



2 子どもたちの成長に合わせ、つかまり立ちやつたい歩きの時期には、壁に貼って、立った時に触れる高さにするのもいいでしょう。手触りの違いや音の違いを楽しんでみましょう。

こんなアイデアも…①

● 手で触るだけでなく、足で踏むのも楽しいものです。普段の地面や床と違う感触や足の裏で感じる触感など、手とは違う感じがすると思います。踏んで痛くなく、大き目のもので作ってみましょう。青竹踏みや飛び石のイメージで。

こんなアイデアも…②

● 紐を三つ編みにし、太く持ちやすくしたものなどを垂らして、引っ張ったりできるようにしても楽しいです。また、叩いたら音のでるようにしたり、触るとシャカシャカ音がしたりするようにすると、触った感触とは違う、体の動きや音などの体験ができるようになります。

3 1～2歳児には、厚紙を台紙にB6くらいのサイズで作ってみましょう。絵本のようにめくる楽しさも取り入れて。Oリングなどでまとめてもよいですが、めくりやすいよう枚数を少なめにしておきましょう。

4 準備したものの周囲をイラストなどで囲んでみましょう。準備したものとイラストのイメージを関連付けると、子どもたちもイメージしやすくなります。硬くざらざらなものはワニ。ふわふわしたものはひつじ、など。

6 春の花にふれる～季節を生かした環境①～

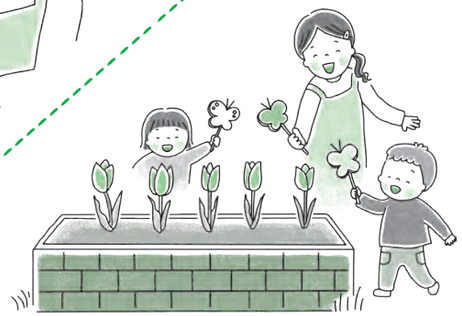
想定年齢 3歳ごろ～　実施人数 1人～　所要時間 約20分

入園や進級をして環境が大きく変わった子どもたちです。一人ひとり安心して過ごすことができるとともに、大きくなったことをうれしく思うことができるように、自分で作ったチョウチョのステッキを持って春の花と関わってあそびます。

準備するもの
❶園庭やテラスに春の花のプランター　❷画用紙
❸クレパス　❹筒状に丸めた紙　❺セロテープ

あそびかた

1 はじめに、室内で一人ひとりが「ちょうちょ」の台紙に色を塗ります。自分のクレパスを使うことができるようになった3歳児です。喜びを共感しながら、クレパスの使い方や片付け方も丁寧に知らせていきましょう。



2 チョウチョのステッキを持ってテラスや園庭のプランターや花壇の近くに行きます。チョウチョのステッキを使ってチョウチョに蜜を飲ませる真似をしたり、いろいろな花を見つけて止まらせたりしてあそびます。

3 チョウチョのステッキを持ってあそぶ中で、色を探したり花を目標にかけっこをしたりしてあそぶことで花や色への興味が広がり保育者との関わりも楽しむことができます。

4 いろいろな色のチューリップ、いい香りがするなでしこやストック、チョウの食草でもあるパンジーなどポットでも購入できる春の花があります。秋から育てることができなかった時にも用意することができます。

こんなアイデアも…

- 季節ごとに、てんとう虫、カタツムリ、セミ、トンボ等、ステッキに付ける昆虫の種類を変えると子どもたちの発見も変わってきます。また、4歳児では、ステッキとチョウチョの間にリボンをつけて、ひらひらと舞うことができるようにするとその動きを友達と一緒に楽しみながらあそぶ様子が見られます。

困っている子どもには…

- チョウチョのステッキの製作を嫌がる子には、色を塗るのではなくクレパスを使ってみることを目的にすることで製作に抵抗がなくなります。「どんな色が好き♪」と歌いながらクレパス選んでも楽しいです。作ることより自然と触れてあそぶことを楽しむことができるようにしましょう。